

よりそう

Side by Side



第157号

編集責任：三好

編集担当者

投稿

(久しぶりの投稿者) 3/8(日)受領

「ご提案なのですが…」 大石康人さん

1週間大変お世話になりました。貴重な体験をさせて頂きました。

「よりそう」有難く拝読させて頂きました。素晴らしい内容です。一フご提案なのですが、英語によるコラムも含めてみてはいかがでしょうか。海外からのボランティアの方も多く、日本語のみの記事ばかりが良いかと思ひます。

※「よりそう」を全てを英訳して下さい、という意味ではありません。一部分のみで十分と思ひます。(終)

局面は、展開しつつあります。

大震災発生後の2011年3月11日から12月末まで、災害救援が主であり、初期は何より食事を持っていく、毛布・医薬品を配布から始り、避難所→仮設住宅と住む所がかわれば、支援の内容もかわっていきます。といこともさなりように力を開いて交流の場をつくる、足湯で体をほぐし、食と語り合っていたり、といった活動になり、野外で互に助け合えたり、花壇をつくる等に移ります。

1月以後は局面は変わりつつあります。「倉造と建設」の方向、まさに復興に向けての動きが活発になってきています。

例は「雇用を作る」ということで大植町おこし広場では、コロッケ・焼きそば、お弁当をつくる店が2つあり、働く場をつくる、陸前高田市上巻部地区

では、地域の力をかき丸太の集会所をつくり、今は製材所と作り建て物をつくらせておられる。大植町赤洗地区では漁師のおが、漁具を格納する番屋(漁具小屋)を建てられました。(基礎部分の砕撤)

これらの地域の動きをボランティアとして手伝える。新しい局面になってきております。

ボランティアの皆さんも、こかう新しい状況にあることを実感して、活動に参加して下さることを願っています。2011年の4、5、6月頃と状況はかわってきていますので、「昔」のことに今も出るのは「あわなくなる」きています。(例：モツキ 4.5.6月頃は、モツキを通じて被災者の元に提供。今は、被災者・地域のボランティアと一緒にモツキをしてコミュニティづくりが主眼。モツキは、あくまで手段で、目標はあります。)

ボランティア参加者、増加傾向

1月5日～1月20日の間滞在していたが、きわめて少数でバス1台6人で瓦礫撤去に出る日、宿泊を兼ねて28名という状況だが、3月8日以後、参加ボランティアが増えています。

地味な活動も、ボランティア。

ボランティア活動といえば、即、瓦礫撤去・心のケアと思いがちですが、実は、ボランティアセンターにもあります。被災地には行かず、ボランティアセンター内で今は、シャワー設置基礎工事のお手伝いをしてます。(右側)センター内の整理もあります。



3/19(日) 天気 晴れ

気温 4℃(低) 14℃(高)

降水確率 60%

(以上釜石地区)